皆さまの声を区政に反映 平成30年度予算

平成30年度に向けて提案・要望してきた予算が多く盛り込まれました。

Ⅱ防犯•防災

●まちの安全・安心 防犯カメラを増やす 新たに交差点58カ所に設置。町会などへの 設置や維持管理助成も拡充します。

●高齢者の安全・安心、振り込め詐欺を防げ 「この電話は、振り込め詐欺等の犯罪被害 防止のため、会話内容が自動録音されます」 振り込み詐欺などを防ぐため、高齢者を対象に 「自動通話録音機 | を無料貸し出し。

■まちづくり・環境

●防災にも役立つ大規模公園を整備 平和の森公園を拡張整備。(仮称)弥生町六 丁目公園、(仮称)本町二丁目公園を整備。

●無電柱化を加速

電線を地中に埋めて電柱をなくす「無電柱化」 を加速させるため、優先整備する路線などを 定めた「推進計画」を策定。





小林 ぜんいち

- (株)宮本忠長建築設計事務所
- (有)TAF 設計事務所
- ●住宅·教育·医療·福祉·文化·宿泊·耐震等設計監

■所属団体等

- (社)日本建築学会正会員
- (社)東京建築士会正会員

中野区長野県人会副会長

- ●福祉住環境コーディネーター協会会員
- ●マンションリフォームマネージャー
- 防災対策調査特別委員会委員 ●日本防災士会会員 ●早稲田大学稲門建築会会員
- 中野区都市計画審議会委員 ●中野稲門会会員
- ●中野区土地開発公社評議員

■議会役職等

建設委員会委員

●公明党議員団副幹事長

●議会運営委員会副委員長

中野区消防団運営委員会委員

||子育で・教育

●就学援助を前倒します

経済的に厳しい家庭の子どもに対し、ランドセ ル購入費などを支援する[就学援助]を、入学 前に前倒、合わせて増額支給。

●待機児童ゼロへの緊急対策

区有施設などを活用し、区立保育室(7カ所)を 2年間限定で運営。

保育士がへの経費の一部を補助する制度を拡充。

●産後ケアを手厚く

双子などの多胎児や未熟児のいる母親に対し、 利用時間の延長など、サービスを拡充。

■健康•長寿

● 「元気アップ体操ひろば |

経高齢者が予約なしで気軽に参加できる体操 の場を整備。

●高齢者施設などの改修

区民活動センターや高齢者会館のトイレの 洋式化など、改修進めます。

Ⅱ町会・自治会へ

町会・自治会への助成額は、世帯数に応じて 算定しています。ただし、世帯数の少ない町会・ 自治会については、一定基準を下回らないよう、 定額制を導入します。



小林ぜんいちオフィシャルWEBサイト

サイトURL http://kobayashizenichi.com/

http://blog.goo.ne.jp/kobayashi_zenichi Facebookは、小林ぜんいち または Zenichi Kobayashi

Twitterは、小林ぜんいち または @koba zen



平成30年 第1回 定例会 予算特別委員会

総括質疑項目

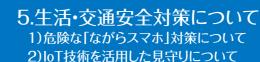
- 1.子どもの育ちと放課後校外の 支援について
- ●子育て支援事業について
- ●U18プラザ後の中高生等向け事業、 居場所の充実について
- ●地域での見守る支援の取り組みについて
- ●学童クラブと児童館について
- 2.高齢者施策・地域包括ケアシステムと 超高齢社会について
- ●地域包括ケアシステムと 超高齢社会への対応について
- ●回復期リハビリ施設と病院、 介護老人保健施設の計画について

3.中野四丁目新北口地区のまちづくりについて

- 中野四丁目新北口地区の まちづくり方針について
- 中野四丁目新北口地区から中野通りへの回廊・回遊動線について
- ●アリーナ協議会について

4.防災・震災対策について

- ●防災リーダー養成と今後の活動について
- ●初期消火設備の配備と今後の訓練について





予算特別委員会(2018.03.1)

U18プラザ後の中高生等向け事業、 居場所の充実を図れ

小林 U18が3館廃止されると、小学校4年生から6年生といった高学年や中学生はどこで過ごすのか。

区 キッズ・プラザをはじめ、すこやか福祉センター、区民活動センター、ふれあいの家など、子どもが利用できる区立施設や、子どもの活動を支える地域活動や事業などについて、事前にわかりやすい周知を行ってまいりたい。

小林 安心して使える場所の案内や周知をし、 安全に過ごすことのできる場所でお願いしたい。 キッズ・プラザも面積や定員などのキャパシティー があり、行ける児童と行けない児童もいる。区民活動 センターなど区立施設の利用等の許可は、手続、 方法などはどのようになっているのか。

区民活動センターの集会室は団体登録により利用ができ、18歳未満の方が過半数を占め、児童が主体的に運営する活動などについては利用料も無料。利用のしやすさやわかりやすい周知を工夫し、U18プラザ中央周辺では、桃園あるいは東部の区民活動センターに限らず、キッズ・プラザをはじめさまざまな施設、使える活動、事業等について広く周知を行ってまいりたい。

回復期リハビリ施設と病院、 介護老人保健施設の誘導を行ってはどうか

小林 回復期リハビリ施設と病院、介護老人保健施設の計画について高齢者が、病気などで入院し、退院後、自宅にスムーズに戻るために、老健などの施設や回復期のリハビリができる病院などが地域にあることが重要だと考える。区は、医療機能を内包した施設サービスとして、介護老人保健施設や回復期リハビリを行う病院についてどのような考えを持っているのか。

区 介護老人保健施設や回復期のリハビリができる病院のニーズは高まると考え、65歳人口に対する整備率が0.15%、区内平均の0.61%と比較してもかなり低い。引き続き誘導していく。

小林 中野区においても国有地、都有地などの 公有地の活用が考えられ、老健や回復期のリハ ビリなどができる施設を整備することが必要なの ではないか。

区 介護老人保健施設の誘導に当たり、通所 リハビリ施設や回復期リハビリを持つ医療機関と の合築ということが考えられる。公有地の活用を 検討する際には、その候補の一つとして検討を 進めていきたい。

中野5丁目のにぎわい軸と回遊性のあるまちづくり

小林 中野の顔で、シンボル空間である中野4丁 目新北口地区を中野の狭い範囲だけで考えるのではなく、中央線を軸とした東京の東西全域まで 視野を広げてこのまちづくりを進めるべきと考える。 中野の駅前は中野のものだけではない。東京の中で個性を発揮し、東京の魅力を向上させる 役割を担っている。中野4丁目新北口地区のまちづくり方針は、将来像をどのように描き、どのような方針を示しているのか。

区 中野4丁目新北口地区まちづくり方針、 グローバル都市としての中心核を形成する中野の シンボル空間といった将来像だが、文化、芸術、 経済、スポーツなどの多様な都市機能が集積する 中心核を形成し、中野をはじめとする東京西部 都市圏の活性化を牽引していくことを目指すと している。まちづくり方針、土地利用の方針、グロー バル都市にふさわしい拠点形成、空間形成の 方針としてにぎわいと安全安心の空間創出、公共 基盤整備の方針としてはユニバーサルデザイン による公共基盤整備の3つを掲げている。

小林 中野5丁目方面の動線は、4丁目側は中野 が誇る最新のシンボル空間だとしたら、5丁目側 は最も中野らしさを体験できる空間だと考える。 4丁目側の集客を5丁目側に流すことで、さらに まちの活性化とにぎわいを生み出せると思い、一体的な動線を設けることが望まれるが、どの ように考えているのか。

区 中野5五丁目の既存のにぎわい軸と協調するよう配慮、将来的な中野通り沿道の建物の更新にあわせた歩行者デッキ等の接続に対応したしつらえを考慮、中野5丁目側のまちづくりの検討が必要である。

小林 多機能型・複合型の利点を生かし、まち全体の収益を高めることを目指してほしい。中野4丁目新北口地区のまちづくり全体をどう考えているのか。

▼ 中野駅新北口地区、4丁目の新北口地区と いうのは、中野区の将来に向かってまちがしっかり と活性化できる、その核となる、最大のチャンス。 区役所・サンプラザ、また、その北側のエリアなど、 中野のシンボル空間の形成、広域からお客様に 来ていただき、歩行者ネットワークで周辺の各地区 に回遊させていく。グローバルな都市活動拠点、 中央線においても中野というまちが大きな存在感 を示せる。アリーナにおけるコンサートやスポーツ イベント、あるいは展示会、国内だけでなく海外 にも発信し、海外からも集客を得ら、内外のグロー バル企業を呼び込む競争力のある大型のオフィス フロア、国際会議の開催に適したホテルやカンファ レンス、また、最高レベルの住宅など、多機能な 複合施設における多様な都市機能の集積、これが このまちの未来をつくり出していく上で大変重要な 課題だと思う。

loT技術を見守りに活用を図れ

小林 loT技術を活用した見守り、新たにスマートフォンのアプリでloT技術を活用した見守りが、ビーコン(電波受発信器)を備えたホイッスル型の専用端末を高齢者や子どもたちに持たせることで、位置情報履歴を家族や保護者などがスマートフォンやパソコンで把握でき、位置情報を専用アプリやメールで通知を受けることが可能な仕組み、区ではこうした取り組みについてどのように考えるか。

区 多くの民間企業がIoT技術の活用による 見守りサービスを展開しており、区としてもIoTを 活用した区民の安全を守る取り組みについて、 他の事例や技術の進展に注視し、よりよい安全 対策の取り組みを構築していきたい。

